

授業科目	臨床心理学	2,3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護2年 理学3年 作業3年	必修 必修 必修

科目担当責任者	(小島秀樹) (-) e-mail : -	非常勤講師 連絡担当教員	澤田いずみ (保健医療学研究棟 E207 号) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	心理学は心の科学とか行動の科学であると言われることが多く、学問的な歴史もあって科学的な知見が蓄積されてきている。しかし、臨床心理学というとき、単なる科学的な知見だけで整理することのできない、いわゆる人間的な問題が扱われることが期待される。本科目では、今日の臨床現場で臨床心理士が考え、患者とともに取り組んでいる内容を具体的な場面やケースを交えて学生に伝えることを目的とする。授業を通じて単なる患者理解だけでなく、患者と関わる自分も含めて理解することの大切さを伝えようとするものである。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の立場や心理、それに関わる医療者の立場と心理についての理解を説明できる。 2. 病めるころ、病むに至るころについて、得られた理解について説明できる。 3. 心理療法などの「治療的」「援助的」関わりについて、得られた理解を説明できる。 4. 講義を通して自らのこころの理解が深まったのなら、それを説明できる。 		
関連科目	人間関係論、心理学概論、倫理と哲学、文化人類学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	最終レポート	70%	レポートは「自分の頭で」考え「自分の言葉で」表すことを求めます。
	ミニ・レポート	30%	
教科書	①河合隼雄・鷲田精一 [2010 年・648 円] 「臨床とことば」 朝日文庫		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	私語は慎んでいただきたい。質問は歓迎します。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	「臨床心理学とは」「健康なこころとは」「こころを容器に譬える」	事前：心理療法関連書物の一読 事後：レジュメ再読	講義	(小島)
2	「患者さんにどう向き合うか」 / 「心理検査1」(説明・配慮)	事前：心理療法関連書物の一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
3	「心理検査2」(その用い方) / 「ストレスへの対処の様々」「不安や悩みに上手に向き合う」	事前：前回のレジュメの再読 事後：レジュメ再読	〃	〃
4	「病めるこころと社会」～こころの「環境」「容器」としての社会～	事前：精神保健関連書物の一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
5	「<事例>をどう理解するか」～感じ考えたことを伝え合う～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	演習	〃
6	「心理療法」は何を目指し、どのように行われるのか	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	講義	〃
7	「医療者としての学びや成長のために」 / 「集団精神療法とは何か」	事前：自分の危機についての想起 事後：レジュメ再読	〃	〃

8	「医療者が抱きがちな心理や考えに自覚的であること」／ 「＜職業人の私＞と＜私的な私＞の間で」	事前：医学界新聞等のコラムの一読 事後：レポート課題の準備	”	”
---	---	----------------------------------	---	---